

令和4年度淀川区区政会議第2回安全・安心なまち部会議事要旨

日 時：令和5年2月8日（水） 午後6時29分～午後7時54分

場 所：淀川区役所 5階 会議室

出席者：

- ・委員8名（8名中）
加藤委員、佐々木委員、杉本委員、田中委員、永野委員、平野委員、山本委員、横山委員（WEB参加）
- ・区役所
田口政策企画課長、山田市民協働課長、長谷川市民協働課企画調整担当課長代理、山川保健福祉課長、竹田保健福祉課福祉担当課長代理ほか

内 容：

1. 開 会
2. 政策企画課長あいさつ
3. 議 題
 - (1) 地域での防災活動について
 - (2) 特殊詐欺被害防止の取組について
 - (3) 区内各相談支援窓口の認知度アップについて
 - (4) 令和4年11月の区政会議全体会議におけるご意見への対応方針について
4. その他

資 料：

【当日配付資料】

- ・次第、配付資料一覧
- ・区政会議部会名簿、座席表
- ・ご意見票
- ・よどマガ2月号

【事前配付資料】

- ・（資料1）令和4年度第2回安全・安心なまち部会 ご意見をうかがいたい内容
- ・（資料2）区政会議におけるご意見への対応方針

1. 開 会

2. 政策企画課長あいさつ

3. 議題

(1) 地域での防災活動について

○区政会議委員の皆様にご意見をうかがいたい内容「地域での防災活動について」区役所より説明

- ・ どうしたら訓練に自発的に来ていただけるかについては、以前一度だけ自発的に来られたことがあり、それは東北の地震のときです。あの後、住民の方が自発的に私も参加したいと言ってこられました。何かしら危機感を感じれば参加したいというように思われていて、内在的に参加したいと思われている方が多いのではないかと思います。来ていただくようにするには、有名な芸能人が来る、めったに見られないものの展示があるイベントのようなものが一番いいのかなと思います。以前に、こういうものを用意してという防災グッズを展示したことがあり、結構多くの人に共感をいただき、どこに、いくらで売っているか、というお話が多くありました。(杉本委員)
- ・ 防災グッズの展示と、区役所から頂いた防災の動画やクイズのDVDと、野中地域のビデオを今回勉強会という形で、3～4町会ずつを4公演しました。バッテリーは地域でそろえています、レジャーでも使えるので1つご自宅に持たれてもいいのではというような説明をさせていただきました。あと、避難所開設は何回かしましたが、入口から少し入ったところでいつも終わってしまい、もう一歩中に踏み込んでというところまでなかなか行けていないのが現状です。地域の方は、新しい情報が多くあれば参加していただけると思うので、マンネリ化しないような形で情報を提供していくことが大事と思っています。(佐々木委員)
- ・ 訓練は見てのだけではつまらないので、実際に手で触って体を動かしてできるものがあると思っています。
去年の暮れ、地域で避難所開設訓練をやりました。区役所からもたくさん応援、御指導いただき、初めてでいろいろ大変でしたが、体を動かして、自分が避難者のつもりで動いたり、病人のつもりでやったりと、いろいろな体験をすることができ、しないといけないことが非常によく分かりました。自分で体験できるコーナー的なものができればいいかなと思います。次は避難所の運営方法について、どんどん避難で来られる方をどのように手配してやっていくか、けが人や高齢者の救助、応援の方法をいろいろ教えていただきながら勉強していきたいと思っています。(加藤委員)
- ・ 子どもがいる人はどこに行けば一番安全になるとか、ペットがいる場合の避難をどうするか、自分が病気の時どうしたらいい等、いろんなパターンがあ

と思いますので、そういう個人個人のパターンでの避難の広報をしていたら、自分事として興味が出てくるのかなと思います。(山本委員)

- 前に、マンションの場合は居住が可能な限り避難所には来ないでと消防署から言われました。おそらく避難所にはすごく人が殺到するので、自宅で住める人はそこにとどまってほしいということだと思います。マンションの理事会でこのことを言ったら、マンションの中の町会の方は、避難所は中学校ですよと言われ、結局いまだに、意思統一が取れていない状況です。私個人としては、子どももいるし、お年寄りが多いので、できればとどまってもらうほうが安全ではないかと思っています。マンションにとどまったとして、電気の問題やライフラインの問題等、どうやってやり過ごすかをマンションの中で考えなければいけない。淀川区はマンションもすごく増えていますし、戸建てだけを想定した計画ではなく、マンションの中での計画、ガイドラインみたいなものを作っていただければと思います。本当に避難所に行ったほうがいいのか、とどまったほうがいいのか、そこら辺だけでも、ある程度のガイドラインを示していただきたいと思っています(永野委員)
- 東三国は、今年の11月27日に避難訓練を行いました。4つの班に分かれて、水消火器、煙体験、AED、体育館に救命防災備品を並べ、それを各班が回り、それぞれで説明をしてもらうというやり方で行いました。
先ほどありましたように、区役所に防災グッズを用意していただいて、皆さん結構興味持っておられました。
避難訓練では、私が消防署の方に、皆さんが分かっているようなことでもあえて質問したのですが、そうすると皆さんから質問がいろいろと出てきました。できるだけ分かりやすく、興味を持ちやすいような形で定着して行って、面白いことをやっていると思っていただけたら、次の年もまた来ていただけたらと思っています。(田中委員)
- キャンプは、サバイバル術をすごく習得できます。防災訓練はやるのが目的ではなくて、それぞれが生き延びるということを目的で訓練をしているはずですので、よく学校でやっている校庭キャンプとか、何かそういう切り口を少し増やすなり、角度を変えて子どもたちを巻き込んでいけば、もう少し興味を持って防災の意識を高めて、さらにはそのスキルを高められるのではないかなと思っています。例えばランタンでお湯を沸かせたりもしますし、お皿を汚さないようにサランラップを巻くとか、キャンプで学ぶこともたくさんありますので、何か少し違う角度から、若いお父さん、お母さん、子どもたちを巻き込むような方法を考えてみたらどうかと思います。(横山委員)
- 防災の仕方がここ数年かなり変わってきているような気がします。地震に備えるのか、火災に備えるのか、津波に備えるのかによって、それぞれ避難の仕方

が全く違います。津波に備える場合はまず逃げるとというのが前提です。今までには、地震の後の避難を前提にやっていましたが、東北の地震後から津波があつて変わってきています。津波なのに校庭、学校へ逃げてきて、水にのまれたら何にもならない。津波のときは高いマンションや高架のところへ逃げるのが前提なのに、私たちも何に対して防災訓練をするのかをまずはっきりと整理してあげないと、なかなか理解していただけないのではないかと思います。（杉本委員）

- ・先日、東三小中学校で、YY防災ネット吉田亮一さんの講演会が小中学校4年生を対象にあり参加しました。

地震は、マンションやビルが壊れた時に、国土交通省が安全検査をして、赤い紙を貼られたら全員避難、黄色なら安全確保しながら住んでもいい。地震の場合は避難をしないといけない人としなくていい人とに分かれる。風水害の場合は、完全に避難しないといけない。そういうことで、訓練を2つに分けてやる必要があるとおっしゃっていました。

地震等の災害時は、土日や休みでない限り、大人、動ける人は会社に行っている。動ける人は、小学生、中学生、高校生ぐらいしかいない。吉田さんは仙台の出身で、仙台でも地震の5年前から、小学生、中学生を対象に集めて避難訓練をされていて、それが地震の際にもものすごく活かしておっしゃっていました。吉田さんみたいな方の講演を区でやっていただいて、各地域から防災関係者は皆集まって、話を各地域に持って帰り、訓練なりやったらどうかと思いました。高槻市でも、小学生、中学生の訓練を学校でやるそうです。（田中委員）

⇒講演会等で知識、興味を持っていただいて、訓練に参加するという意欲がわき、どんどん人が集まってきて、その中でマンネリ化しないようにいろいろと毎回変えていくことで、よりいい訓練ができるのかと思います。

永野委員がおっしゃっていたマンションと戸建てにより避難についての考え方が違うというところでは、地域で地区防災計画を立てる際、ある地域では9割がマンションなので、まずは垂直避難、それから小学校に行くという計画を立てている事例もあります。戸建てが多いかマンションが多いかというのは行政のほうから発信しないと分からない話なので、地域の方が地区防災計画を考えていただける際には、その地域の特性を私たちが情報提供しないとけないと思いました。（山田市民協働課長）

（2）特殊詐欺被害防止の取組について

○区政会議委員の皆様にご意見をうかがいたい内容「特殊詐欺被害防止の取組について」区役所より説明

- ・自分にそういう電話がかかってきたら、頭真っ白になって、ひよつとしたら引

っかかるかもしれません。自分1人で電話を受けたら、仕事でも事故が起こった、けがしたという電話の場合は、瞬間的に頭真っ白になって、どうしたらいいかわからないということがあります。それと同じことで、それをどうやって防ぐかと一生懸命考えるのですが、対応する答えが出てきません。(杉本委員)

- ・回覧で毎月1回、交番だよりがありますが、特殊詐欺が一番メインで書かれているので、その辺の周知徹底というところでは十分行っていると思います。時々、年齢的にすごく若い人が引っかかっていたりしているので、高齢者だけじゃないというところも、今後気をつけていかないといけないと思います。

青パトについて、塚本地域の防犯の方が乗られて頑張っていると思います。どれだけ効果があるかというのは分かりづらいですけど、地道な作業ですので、定期的に回っていただければと思います。(佐々木委員)

- ・市営住宅に若いお兄ちゃんが来て、煙感知器の交換ということで家の中へ入ってきて、勝手に新しいものに交換してくれるが、自分が被害に遭ったと思ってないのがほとんどで、1万5000円、2万円も高いとは思いますが、交換してくれたからいいかという方もかなりおられました。詐欺か、いいかげんな仕事かの見極めも大切ですが、絶えず、いろんな声かけ、話しかけというのは大事だと思っています。

青パトは、普通の機械的な音声を流すのではなく、できれば車に乗っている人から直接、「僕、どうしたん」、「おばあちゃん大丈夫」等、いろんな生の声が聞ければもっといいのではないかと思います。レコーダーで流しているのは、なかなか入ってこないのかなと思いますので、御検討いただけたらありがたいです。(加藤委員)

- ・特殊詐欺は、コンビニの店員や、銀行員の方がおかしいと気づいて防いでいただいているニュースもかなり見ます。淀川区で被害総額が結構多いですが、これは銀行振込とかそういう内訳は把握されているのですか。(山本委員)

⇒毎月、警察から、どういう状況でということの連絡があり、その中でアポ電、キャッシュカード詐欺、オレオレ詐欺等どういう種類というのがわかります。

(山田市民協働課長)

- ・テレビで、最近の押し入って殺してまで金品を奪う事件が増えた分析として、特殊詐欺への取締りがきつくなって金繰りが厳しくなっていて、乱暴な事件が増えてきているのではないかということでした。

これをどう防ぐかはとても難しいですが、結局防災と一緒に、近所でお互いのコミュニケーションというか、みんなでわいわいしゃべり合って、こんなことがあってみたいなことしかないのかなと思います。割と人目があるところというのはなかなか入りにくいと思います。家にいるとよく電話かかってくるのは不用品の処理で、あれは結局家の中に入り込むので、あれももしかしたら

という気がしないでもないです。それについても住人の中で言ったほうがいいのかないという気はしています。(永野委員)

- ・ATMコーナーに行ったところ、そこに警察や銀行員という感じでもない男性が1人いて、ATMで困っていた方に声をかけて、いろいろ操作をやっていただいていたみたいですが、常にそういうふうに誰かを配置すると少しでも防げるのかなと思います。

あと、ナンバーディスプレイで03の番号からかかってきて、大阪の区役所からみたいなのを言う電話があったそうです。ナンバーディスプレイの電話機に変えることで防げるかなと思いました。(田中委員)

- ・犯罪に巻き込まれるきっかけを掴むのが一番いいと思います。

いまだに特殊詐欺は電話が主流で、かかってくるのは固定電話が多いと。高齢者が固定電話を所有しているからでしょうけども、録音機無償貸与事業が進めば、多少はきっかけを掴めるのではないかと思います。

高齢者の方は、固定電話をいまだに契約していても、使ってないと聞きます。何となく過去の流れとか、解約の仕方が分からないという理由でそのまま契約しています。本当に固定電話が要るのかどうか、要らないのであれば解約の仕方を教えてあげるといふところの根っこから掴めば、犯罪者も電話をかける場所がなくなるのではないかと思います。(横山委員)

- ・青パトですが、スピードがかなり早いので、何を言っているか分からないんです。お昼とか夕方の時間帯に回っていらっしゃるのですが、多分流れがあるから、その流れに沿っていかないといけないと思うのですが、あのスピードだったら多分誰も聞き取れないのではないかなと思っています。(平野委員)

(3) 区内各相談支援窓口の認知度アップについて

○区政会議委員の皆様にご意見をうかがいたい内容「区内各相談支援窓口の認知度アップについて」区役所より説明

- ・相談に来てくださいとおっしゃるのはよく分かりますが、行くほうからすると、この秘密をきちんと守ってもらえるのかという不安もありそうな気はするので、何かしら資格のある人がやっているというような触れ込みも必要かと思えます。

区役所の職員はどこまで守秘義務を守ってくれるのかが分からなければ、私自身もなかなか行きにくい。それなら、カウンセラーのあるお医者さんのところに行ったほうがまだ安心できるかなと思いましたので、それを克服していただければ、もう少し来ていただけるのではないかと思います。(杉本委員)

- ・町会長をしていて、もし相談に来られても、民生委員を紹介するか包括センターを紹介するかということで、今、包括センターがかなりよくしていただける

ということで、民生委員もとりあえず包括センターに相談に行くようにというような対応を町会ではさせていただいています。(佐々木委員)

- ・悩みがある人も、何とか外に出ていただいて、いろんな方と話をする、雑談をする中でいろいろ出てくるのではないかと思ったりもします。

何かイベント的なことを、みんなで顔を見て話し合える場所を作ってあげたらどうかと私の町会でも考えてやっています。(加藤委員)

- ・子ども食堂の手伝いに行っていますが、いろんな問題を抱えた人たち、不登校の子や、お年寄りがいっぱい来ていて、主催者の方があそこで言ってみたら、こんなのもあるよとかを言っておられます。何かで困っている人たちと、あまり困ってなくて何とか普通に生活している人との間の接点がありませんように思います。来てくれるのを待つ体制は当然大事ですが、そのコミュニティで困っている人のつながりみたいな、そこを引っ張らないと、アウトリーチのような取組は難しいのではないかと思います。ここら辺を掘ったら困ってそうだなみたいなところを何とかしていただきたいと思います。

あと、行って助かったという実績がとても必要だと思います。あそこに行ったらこうしてもらって助かったとか、気持ちがほっとしたとかだけでも、そういう口コミが広がって、本当に困っている人たちに知ってもらえればと思います。(永野委員)

- ・区役所のホームページを見ていても、何か分かりにくいです。いろいろ探していたらまた元に戻ったりするので、もう少し分かりやすいホームページにしてくださいと思います。(田中委員)

- ・窓口の認知度が上がったから、人が押し寄せて来るということはおそらくないと思います。その来られた人たちの後ろに隠れている、もっと大多数の人たちを見つけに行く作業が必要だと思いますので、来られた人から関係性のあるところをどんどんたどっていくアウトリーチで外に出ていかないと、いくら待っていても解決しないはずです。

豊中の例で、ドラマの「サイレント・プア」のモデルになった、コミュニティ・ソーシャルワーカーの勝部麗子さんが、どんどん外に出て問題を見つけて、解決していくという成功例がありました。そういう姿勢がないと、受け身ではおそらくいつまでたっても進展がないような気がしますので、大変だと思いますが、区役所の方、そういうことに関わる方、民生委員の人たちがどんどん外に出て隠れている人たちを見つけていく作業にもっと時間を費やす、アイデアを出すという作業をしてほしいと思います。(横山委員)

- ・区役所が直接困っている方を知ることができるパターンはどういうものですか。(平野委員)

⇒例えば、地域の方から直接区役所に、近所でこういうことがあって困ってお

られる方の御相談をいただく場合もあります。または地域の方が地域包括支援センターにこういう困っている方がいると相談に行って、地域包括支援センターからその必要な関係機関に連絡を取っていただくというような、様々なケースがあります。

何かの情報を得て、アウトリーチしに行くということが多いと思っています。ただ、今のお話を聞かせていただいて、待っていては駄目であって、やはりこちらからより積極的にアウトリーチしていかないといけないということは、おっしゃっていただいたとおりでと思います。(山川保健福祉課長)

- ・何か買物に行った先でそういう相談窓口を知るとか、そういうことが何かあるかなと今考えていたのですが。

民生委員や地域の役員の方等を知っていたら手がかりにして行くというのはあるのですが、全く知らない場所に年老いてから引っ越してきて全然周りを知らないという状況も多いですね。マンション多かったらそれが多いですからね。(平野委員)

- ・若い方の相談は多いのでしょうか。(平野委員)
- ⇒若い方であっても、例えば子育てや教育等、必要な様々な関係機関のところにつないでいくという流れにはなっているのですが、十分できているかどうかというのは課題としては残っているのかなと思います。(山川保健福祉課長)
- ・経済的に困っている相談や、働き口がなくて困っている相談、地域で悪い人、気の合わない人がいるから困っている相談等、具体的にはどういう案件が多いのかを教えてくださいませんか。今後、私のところにそういうのもあるかもしれないので。(杉本委員)

⇒一番多いのは介護に関わるような課題、御本人さんだけではなく御家族が困っているとか、御病気のことで困っておられてどこに相談にいけばいいか分からない、そういう介護や医療というところが特に多いのかと思います。あと子育てに関して、相談できる相手がいない、知り合いはいるけどもその内容を伝えたくないという場合に、どこに相談に行ったらいいかが多いと思っています。(山川保健福祉課長)

- ・相談に行ってもなかなか問題は解決しないですね。昔、区役所に家族のことで相談したことがありました。話は親身に聞いていただいたのですが、具体的には、お医者さんに行くようにとか、何か少し突き放されたような感じで、私の家族としては解決に至らなかったことがありました。解決してほしい思いで相談に行くけども、なかなかそこまで行かないというのはよく分かるのですが、そういうところで行くに行けないつらさというのがあるのではないかとと思っています。(杉本委員)

⇒必ずしも職員が全てを解決するわけではありませんが、例えばお医者さんと

連携したり、本当に必要な様々な関係機関と一緒に解決方法が考えられないかということをつないでいくために、その辺りの職員自身の感度アップについても引き続き努力していきたいと考えています。(山川保健福祉課長)

(4) 令和4年11月の区政会議全体会議におけるご意見への対応方針について

・特に意見なし

4. その他

・住んでいるマンションに、中国や韓国の方が結構いらっしゃいます。ごみ出しについて、日本語はしゃべられるので日本語で案内しますが、文字となった場合にどの程度読んで理解されているのかが分からなくて、時間外や違う曜日にごみを出されたりします。

役所から配布されるのは、日本語ばかりですが、大阪は外国の方が結構いらっしゃると思います。ごみ出しについては、中国語等が一応あるようですが、日本語のようにカラーのパンフレットではないらしいです。何かもう少し、どの国の方にも分かるような資料を作っていただけたらと思います。

例えばうちの町会にはそういう方がいらっしゃるので、何部を頂けますかという感じでできたら非常に助かりますので、検討していただければでしょうか。

(田中委員)

⇒ごみについては環境局が担当となりますが、こういう声がありましたとお伝えはできます。(田口政策企画課長)

・ＹＹ防災ネットの吉田さんの講演会について、各地域から防災関係の方ばかり集まってもいいし、有志の方でもいいですが、そういうものをできたら本当に早急に検討していただきたいです。各県いろんなところでやってらっしゃって、私たちが今まで避難訓練等やっていましたが、全然それでは対応できないという感じです。区役所でそういう生の声を取り入れてもらえるようなことを検討していただきたいと思います。(田中委員)

⇒来年度、区での防災関係のイベントや訓練も、現在企画検討中ですので、そういう御意見を聞きながら、どこかいい時期に、地域だけではなく区内全域に周知をして、区民が区民センター等に集まり、講演会やAEDの訓練等ができればかを検討させていただきます。(山田市民協働課長)